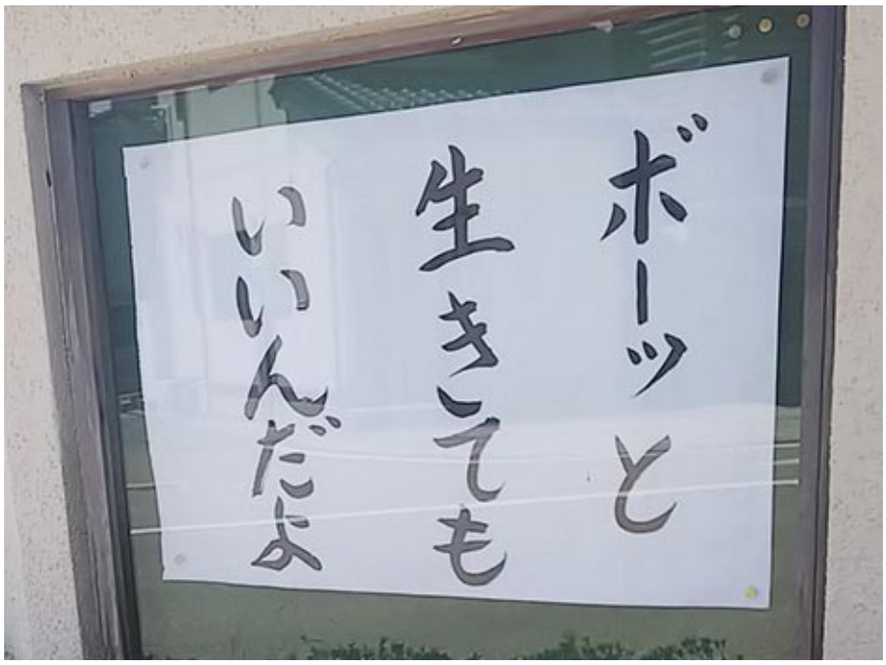
ひろまれ念仏

vol.7（ver3.0）

2019 年　9 月　発行
山中温泉　白鳳凰山　恩栄寺



ごあいさつ

今「お寺の掲示板（けいじばん）」が話題です。昨年から「仏教伝道協会（ぶっきょうでんどうきょうかい）」が主催する「お寺の掲示板大賞」というキャンペーンが行われ、ネットだけでなく、いろんなメディアでも注目を集めています。その中で当寺の掲示板も、なんと NHK のニュースに取り上げられました！たまたま左の掲示板の写真をネットに投稿された方がおられ、NHK の記者の方の目にとまったようです。

考えさせられたり、クスッと笑えるような言葉が書かれてあるお寺の掲示板。皆さまも、ぜひチェックしてみてくださいね。

◆法要のご案内◆

秋季彼岸会・永代経法要

●日　時●

９月１７日（火）　１４時～（お逮夜）
２０時～（お初夜）
１８日（水）　１０時～（お日中）
１４時～（ご満座）

●ご講師

福井県　受恩寺　ご住職
長尾（ながお）　祐二（ゆうじ）　師

どうぞお気軽にお参りください。　**恩栄寺**

◆本堂使用のお知らせ◆

以下の日程で、本堂（および庫裏の一部）を行事開催のために使用いたします。期間中、本堂でのご法事などができないなど、ご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

行事名「AROUND」
期間：10 月 11（金）～ 13（日）

行事名「生き方見本市」
期間：11 月 30 日（土）

若院の勝手に仏教書紹介

『マイ仏教』
みうらじゅん 著

「マイブーム」という言葉の生みの親で、仏教ファンとしても知られるみうらじゅん氏が仏教を語った一冊。「諸法無我（しょほうむが）」=「自分なくし」など、独特の感性による味わいは、まさに目からウロコ、です。

ゼロから味わう仏教講座

第七回　幸せを願うからこその苦悩（一切皆苦）

前回・前々回と、「諸行無常」と「諸法無我」について味わってきました。どちらも、執着から離れるための大切な教えでした。

さて今回は「一切皆苦」という3つ目の真実を味わいます。「一切皆苦」、つまり全ては苦悩に繋がるということなのですが……実に厳しい真実です。できればそんなこと知りたくなかった、と感じる方もおられるかもしれません。私もその一人で、かつては「仏教はなぜわざわざそんな無粋ことを言うのか」と感じていました。

なぜならば、私達は人としてのいのちを生きる中で、できることならば「幸せ」でありたいと願うからです。しかし私達の思う「幸せ」とは、一体何でしょうか？お金に困らない、健康で長生き、商売繁盛など、いろんなことが思い浮かぶかと思います。しかし突き詰めて考えてみますと、それは「私の思い通りになる事」ということに集約されそうです。つまり私達が幸せと感じることは、自分の思い通りになることですから、思い通りにならなければ、幸せではない状態となります。

けれど、全ての物事が私達の思い通りにならない事は明白です。むしろそうでないことの方がほとんどです。仏教で苦悩の代表とされる「生老病死」は、私の思い通りにならないことの代表でもあります。つまり、**私達は幸せでありたいと願うことで、思い通りにならないことを思い通りにしたいと望み、その結果、思い通りにならない現実にぶつかり、苦悩と出会わなければならなくなってしまうのです。「一切皆苦」とは、実はそんな私達の在り方が作り出してしまっているものなのです。**

『仏説無量寿経』というお経の中には、**「田畑があればそれに思い悩み、財産があればそれに思い悩む。またそれらが無ければ、無いことに思い悩む」**という私達の姿が示されています。どんな状況でも、〈思い通りになること・願いどおりになること＝幸せ〉だと思っている以上、そうならないという苦しみがワンセットになっています。「幸せ」があるということは、「幸せ」でない状態（＝不幸）も同時にあるということです。

しかしお釈迦様は、それを克服できる、とおっしゃいました。その方法は「幸／不幸」という考え方を離れる、という方法です。もう少し言いますと、私達の持つ基本的な価値観である「勝ち／負け」、「得／損」というような、二元的な考え方を離れ、超えていこうという道です。

「幸せ」になることから離れてみる。そこに「苦悩」から離れることができる道があるということが、この「一切皆苦」から味わえるのではないでしょうか。

若坊守の子育て(られ？)日記⑧

編集後記

今年もたいへん暑い夏でした。皆さま熱中症や、暑さ疲れなど大丈夫でしょうか。さて冒頭でご紹介したお寺の掲示板のニュース。こちらから読むことができますので、スマホやパソコンをご利用の方は、ぜひご覧くださいませ。

http://ur0.work/zVUb